

○黒田井上兩大使韓綱領

明治八年十二月九日 朝廷陸軍中將兼參議開拓長官黒田清隆ヲ以テ特命全權辦理大臣ト爲シ朝鮮國ニ差遣セララル

二十七日議官井上馨ヲ特命副全權辦理大臣ト爲ス

前後隨行ノ命ヲ拜スル者陸軍少將種田政明外務大丞宮本小一外務權大丞森山茂陸軍中佐樺山資紀開拓少判官安田定期開拓幹事小牧昌業准陸軍少佐永山武四郎開拓使七等出仕鈴木大亮等合三十一名開拓使出張所中ニ一局ヲ設ケ行事ヲ理ス

二十九日副大臣先發大坂ニ到ル末松謙澄亦同ク發ス

三十日大臣隨員ヲ率ヒ 謁見陸辭ス又賢所神殿ニ謁ス酒饌ヲ賜フ及ヒ緞絹等ノ物ヲ賜フ各差アリ

明治九年一月六日午後一時大臣隨員ト共ニ開拓使署ヲ出テ玄武丸ニ上リ

五時品海ヲ發ス此行發遣ノ艦ハ日進孟春玄武高雄矯龍函館六艘トス時ニ孟春艦ハ長崎ニ在リ對州竹敷港ニ於テ諸艦ニ會セントス日進艦ハ横濱ヨリシテ發ス海軍省差遣ノ官員ハ海軍大佐仁禮景範中佐有地品之允少佐伊東祐亨(日進艦長)井上良馨(高雄艦長)笠間廣盾(孟春艦長)會計少監有馬純武大尉柴山矢八(砲兵司令官)志岐守行(歩兵中隊長)等ナリ

八日 正午十二時神戸ニ抵ル副大臣末松謙澄ト共ニ此地ニ在リ相待ツ

九日 午前七時解纜

十日 午前九時馬關ニ抵リ投錨ス

十二日 午後二時解纜

十三日 午前八時對州竹敷港ニ入ル孟春艦ニ會ス高雄丸モ亦踵テ至ル
是ヨリ先キ朝廷外務少丞廣津弘信ヲ遣リ釜山ニ抵リ朝鮮國官員ニ接
シ口陳書ヲ以テ我國大臣ヲ差遣セラルルノ事ヲ報セシム弘信已ニ歸
テ殿原ニ留リ大臣ノ到ルヲ俟ツ大臣人ヲ遣リ之ヲ迎ヘシム弘信即チ
竹敷ニ來リ使命ヲ傳ヘタル事狀ヲ陳ス
諸艦前後皆來リ會ス

十五日 午前七時一行釜山ニ向テ發ス午後三時釜山ニ達ス

釜山館長代理山之城祐長ヲシテ別差李滄秀ニ接シ我大臣已ニ對馬ニ
到リ直ニ江華ニ發往スルノ意ヲ報セシム
大臣 朝廷ニ稟議スル所アリ此港ニ碇泊スル汽船滿珠丸ヲ雇ヒ小
寺秀信ヲシテ電信ヲ齎ラシ馬關ニ抵ラシム飯田俊助モ亦命ヲ受ケ歸

朝ス

十七日 午前七時滿珠丸解纜

南陽府下ホルネル島ヲ以テ諸艦相會スルノ處ト定メ先ツ此地ニ停泊
シ江華府ニ進ムノ航路ヲ測量シ然ル後發往セントス是日正午十二時
日進孟春函館矯龍四船解纜ホルネル島ニ向フ

十八日 午後五時高雄丸亦發ス

大臣釜山ニ在リ滿珠丸ノ回報ヲ待ツ而シテ連日風波該船久ク至ラス
乃チ更ニ鳳翔艦ヲシテ公信ヲ齎ラシ馬關ニ抵リ其回報ハホルネル島
ニ來リ遞セシム

二十三日 午後一時鳳翔艦解纜本艦亦同ク拔碇ホルネル島ニ向フ

二十五日 午後三時ホルネル島ニ達ス諸船皆碇泊シテ此ニ在リ

孟春矯龍二船ヲ發シ江華江ヲ溯リ府ニ進ムノ水路ヲ測量セシム孟春ハ南口ヨリシ矯龍ハ北口ヨリス

二十六日 午前九時矯龍丸解纜種田政明安田定則永山武四郎及海軍省御雇ゼエム、ゼームス等之ニ乗ル副大臣亦同ク往ク

二十七日 午前七時三十分孟春艦解纜樺山資紀益滿邦介等之ニ乗ル

午前十時函館丸ヲシテ南陽仁川沿海ヲ測量シ碇泊ニ便ナルノ港灣及ヒ淡水ノ所在ヲ求メシム日進艦長伊東祐亨玄武丸船長シ、シミット等之ニ乗テ發ス

南陽府使姜潤問情トシテ來リ米酒鷄猪等ヲ贈ル宮本小一小牧昌業日進艦ニ於テ之ニ接ス其物件ハ之ヲ謝還ス

二十八日 午後六時函館丸回リ至ル

二十九日 午後一時本艦日進高雄ト共ニ移テ大阜島側ニ泊ス(ホルネル島ヲ距ル大約二十五マイル)函館丸ニ令シテホルネル島ニ留リ矯龍丸ノ歸リ至ルトキ本艦ノ所在ヲ指示シ鳳翔艦ノ來ルヲ待テ共ニ同ク大阜島側ニ來ラシム

三十日 司譯院堂上官吳慶錫訓導玄昔運來ル宮本小一森山茂日進艦ニ於テ之ニ接ス

三十一日 午前九時孟春艦回至

二月一日 午後三時矯龍丸回至

四日 午前十時諸艦一同江華島ニ向テ開行シ南口ヨリシテ進ム前日測量シテ北口ハ航路迂回且江口潮流峻急南口ノ便ニ如カサルヲ知レハナリ午後一時三十分頂山島下ニ抵リ投錨ス

吳慶錫玄昔運京職五品官高永周ト共ニ日進艦ニ來ル森山茂鈴木大亮
之ニ接ス

五日 矯龍丸ヲホルネル島ニ遣リ函館丸ニ代テシム

森山茂安田定則ヲ江華府ニ遣リ大臣上陸ノ事ヲ報シ旅館ノ準備ヲ爲
サシム時ニ朝鮮國接見大官中樞府事申樓副官都總府副總管尹滋承府
ニ抵ル森山等副官尹滋承ニ面接シ旅館準備等ノ事ヲ了ス

六日 森山等歸艦

七日 函館丸滿珠丸ヲ導テ頂山島ニ到ル外務權大丞野村靖 旨ヲ奉
シテ來ル小寺秀信モ亦歸リ至ル鳳翔艦ノ汽錐損所アリ故ニ滿珠丸之
ニ代ルナリ

八日 又森山茂ヲ江華府ニ遣リ大臣明後日ヲ以テ府ニ入ルヲ報シ且諸

般ノ準備ヲ爲サシム

九日 儀仗兵若干ヲ遣リ草芝鎮ニ上陸江華府ニ赴カシム兵員高雄丸ヨ
リ脚艇數隻ニ搭シ小汽船ニ牽カシメ將ニ本船ヲ離レントス誤テ一小
艇ヲ覆ス溺ル者十六名高雄及玄武函館ヨリ小艇ヲ發シ之ヲ救フ方ニ
退潮ノ時ニ際シ江流迅急遂ニ二名ヲ失ス多方撈索スレトモ得ス

十日 午後一時兩大臣諸隨員ヲ率ヒ本艦ヲ發ス二ノ小汽船ヲシテ脚艇
數隻ヲ引テ進マシム鎮海門前ニ上陸三時四十分江華府副帥營ノ旅館
ニ入ル直ニ往テ接見大臣ノ寓ヲ訪フ申樓尹滋承亦旅館ニ來リ答禮ス
十一日 午後一時兩大臣西門内鍊武堂ニ抵リ正副官申尹ニ會シ談判アリ
官本小一森山茂小牧昌業浦瀬裕隨同ス

十二日 午後一時鎮撫保釐營門外執事廳ニ抵リ申尹ニ會晤ス官本小一森

山茂安田定則小牧昌業浦瀬裕荒川德滋隨同ス議條約ヲ結フノ事ニ及
ヒ其草案ヲ示シ十日ヲ限り決答スルヲ約ス

品川丸海軍省送ル所ノ石炭糧食ヲ載セ來ル

十三日 午後一時執事廳ニ於テ談判アリ宮本小一森山茂安田定則鈴木大
亮浦瀬裕荒川德滋隨同

吳慶錫玄昔運來ル森山茂鈴木大亮之レニ接ス彼條約案ヲ漢文ニ譯シ
テ去ル

十六日 孟春艦ヲ遣リ仁川富平沿海ヲ測量セシム

二十日 午後七時兩大臣執事廳ニ至リ申尹ニ會晤ス野村靖森山茂安田定
則小牧昌業鈴木大亮浦瀬裕荒川德滋隨同是ヨリ先キ朝鮮政府吳慶錫
ヲ召テ上京セシム蓋シ條約ノ事ヲ議スルナリ慶錫京ニ在リ條約案中

政府異議アルノ件ヲ申尹ニ報ス申尹玄昔運ヲシテ意ヲ我大臣ニ致シ
刪改ヲ求ムル者數件大臣其請フ所ニ應ス昔運又我旅館ニ來リ條約案
ヲ校ス宮本小一之ニ接ス因テ條約批准ニ國王署名ノ事彼異議アルヲ
知ル故ニ是夜大臣遽ニ申尹ニ面接ヲ請フ彼是日京信アルヲ以テ議政
府送り來ル所ノ謝辭文案ヲ示ス之ヲ見ルニ語辨解ニ涉リ且江華砲擊
ノ事ニ及ハス悔謝ノ意ヲ見ス而シテ批准署名ノ議遂ニ合ハス大臣使
事成ラス已ムヲ得ス歸國スヘキヲ發言シ十二時歸館

野村靖私ニ往テ申榎ヲ訪フ曉ニ至テ回ル

二十一日 宮本野村森山鈴木申榎ノ館ニ至リ議スル所アリ

二十二日 大臣將ニ府ヲ發セントス安田定則ヲ遣リ別ヲ申尹ニ告ク是ヨ
リ先キ宮本野村屢々申榎ニ説クニ我大臣歸計已ニ決セリ宜ク早ニ及

テ改ムヘキヲ以テス此ニ至リ歸裝已ニ成ルト聞キ大ニ驚キ遽ニ駕ヲ命シ旅館ニ來リ云貴大臣議スル所ノ事速ニ京師ニ稟シ順成ニ至ラシムヘシ爲ニ數日ヲ稽留セラレン事ヲ請フト大臣肯テ聽カス彼懇請已マス遂ニ五日間船ニ留リ報ヲ待ツヲ期シテ別ル時ニ吳慶錫已ニ京師ヨリ至ル中尹又慶錫及玄昔運ヲシテ上京セシメ稟議スル所アリ宮本等ニ約スルニ決議五日ヲ限ルヲ以テス

午後一時大臣森山安田等ヲ率ヒ府ヲ發シ船ニ歸ル副大臣竊ニ府ニ留ル宮本野村小牧鈴木等及兵員若干亦同ク留ル

是日孟春艦頂山島ニ回ル

二十四日 瓊浦丸馬關ヨリ來航ス飯田俊介公信ヲ帶テ至ル

二十五日 吳慶錫玄昔運京師ヨリ歸ル彼報スルニ修好ノ議都テ貴大臣ノ

言ニ從フ當ニ明後日ニ於テ條約ヲ交換スヘキヲ以テス

二十六日 午後一時三十分大臣隨員ヲ率ヒ本艦ヲ發シ四時副師營ニ入ル

二十七日 午前九時兩大臣鍊武堂ニ抵リ申尹ニ會ス種田政明宮本小一森

山茂樺山資紀安田定則小牧昌業鈴木大亮浦瀨^等榎^等同彼此條約ニ鈐印

シ互換ス彼又條約批准及ヒ議政府照會文ヲ交シ了リ大臣祝辭ヲ爲ス

彼宴ヲ設ケ樂ヲ奏ス十二時別ヲ告ケ直ニ船ニ歸ル宮本野村鈴木等猶

留ル

二十八日 朝宮本等歸リ來ル午前九時諸艦皆解纜

三月一日 午後^{三時}三十分馬關ニ抵ル

二日 午前四時同港ヲ發ス

四日 午前十時品海ニ達ス兩大臣及隨員一同上陸

五日 兩大臣參朝復命ス

○黒田井上兩大臣朝鮮官憲ト接見記事

明治九年二月十日

二月十日兩大臣江華府副帥營ノ旅館ニ入ル即チ接見大臣申櫓ノ旅
館ヲ訪フ申櫓及ヒ副官尹滋承迎接ス浦瀬裕通譯宮本小一森山茂陪
坐

大臣

本日該所ニ到着セシニヨリ直チニ來訪セリ

申

萬里ノ波濤恙ナク來航セラレ敬賀々々

大臣

貴國王殿下安寧諸官辨皆無事ナルヤ

REEL No. 1-0027

0270